

荒川堤外でジャガイモ作り



川島町 大野良介さん

遊休農地解消し大規模生産

【埼玉】川島町の大野良介さん(37)は荒川の堤外地の遊休農地約10畝を解消して集積。ジャガ

イモやブロッコリー、カリフラワーなどの露地野菜を約14畝で生産し、JAなどに出荷している。

写真。

前職のネット販売経験から「生産から販売・在庫管理までできる仕事はないか」と考え、埼玉県に移住し農業法人などで研修、妻の香織さんとともに就農した。

ジャガイモの大規模生産ができる農地を探していた2021年、荒川の堤外の遊休農地に目をつけた。ここは水はけがよく、ジャガイモに適した環境を作るチャンスと感じた大野さん。草木が繁茂し、地主も手を付けら

れない状態だったが、仲間の協力とJA全農さいたまの遊休農地再生・活用事業も活用して農地に復元した。台風の時期は冠水するリスクがあるため、春先のみ収穫する。

大野さんは来年、ジャガイモをさらに10畝拡大しネット販売なども検討している。「ジャガイモをこの町の特産品にできれば」と今後の意気込みを語る。